

羽田国際における FAST TRAVEL推進WG の取組み



FACE
RECOGNITION



2018 AUG

第3回WG

2018 MAY

第2回WG

2018 MAR

第1回WG

WGメンバー

CAB / CIQ / AOC / ANA・JAL / JAT・TIAT



羽田空港 FAST TRAVEL推進ビジョン(出発)

第3回FAST TRAVEL推進WGより

FAST TRAVEL 「出発時の所要時間を**10分**とする」

一般区域
セキュリティ

チェックイン
手荷物預け等

セキュリティ
保安検査

出国
審査

搭乗
ゲート

* ONE-ID顔認証機能 付き

()は台数を示す。変更可能性あり

T3

—防犯カメラによる先進的な
情報解析・警備システムの
導入を検討

T2

—T3の状況を踏まえ、
必要に応じ導入を検討

T3

—北側増床部にアイランドを
追加導入 (6→7)
—**自動チェックイン機(CUSS)***
を追加導入予定 (56→64)
—**セルフBGドロップ(SBD)***
の導入予定 (48)

T2

—**自動チェックイン機**導入予定
(台数検討中)
—**セルフBGドロップ**導入予定
(台数検討中)

T2 セルフ導線を主軸とした
新レイアウト

T3

—待ち時間測定表示
新システム導入予定
(現行システム機器の変更)
—**スマートレーン**
の追加導入予定 (1→2)
—ボディスキャナー追加導入予定
(台数検討中)

T2

—待ち時間測定表示
新システム導入検討
—**スマートレーン**導入予定
(台数検討中)
—ボディスキャナー導入予定
(台数検討中)

T2・T3

— 顔認証ゲートの導入
(日本人の出国手続)
— 入国審査官の機動的配置
— 案内表示の充実

T3

—自動搭乗改札*を導入
(台数検討中)

T2

—自動搭乗改札*を導入
(台数検討中)

FAST TRAVEL 「到着時の所要時間を**30分**とする」

一般区域
到着ロビー

税関
検疫

手荷物
受取

入国
審査

到着
導線

()は台数を示す。変更可能性あり

T3

T2

T3

税関検査場電子申告ゲート
高性能X線検査装置
デジタルサイネージを導入

T2

税関検査場電子申告ゲート
デジタルサイネージを導入

T3

ターンテーブルを增強
(6.5→8)

T2

ターンテーブル導入(3)

T2・T3

- 顔認証ゲートの導入(日本人)
顔認証ゲートの利用案内誘導
積極的な広報
- 審査ブース
コンシェルジュの配置
- ブースの縦型化による
審査ブースの拡大
- 入国審査官の機動的な配置
- 案内表示の充実

T3

T2

羽田空港 FAST TRAVEL推進ビジョン 目標設定

- 羽田における目標設定をし、各プロセスにて先進機器・システム導入および利用拡大し、ビジョンの具現化を図る。
- 「One ID」については、課題の整理研究、実証実験を実施し、その実用・実現を目指す。

< 目標値の考え方 >

第3回 羽田FAST TRAVEL推進WGより

出発・到着に要する時間を「**出発10分** **到着30分**」とし、その「所要時間内に通過した旅客比率」を目標(達成率)として設定する。なお、対象となる旅客/手続き/時間帯は別途設定する。

* 2018.11月に実地調査にて現状達成率を計測のうえ、2020における目標(達成率)設定を行う。

●対象設定/目標案

2018年 T3

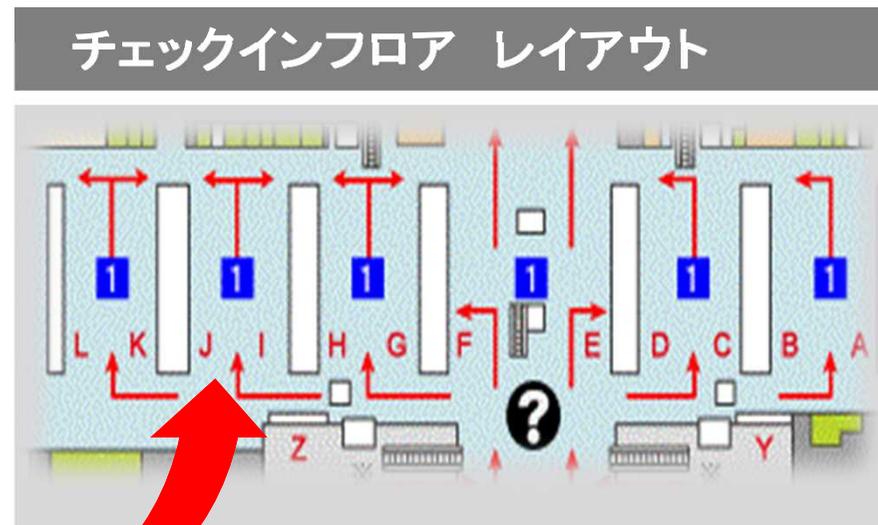
2020年 T2 & T3

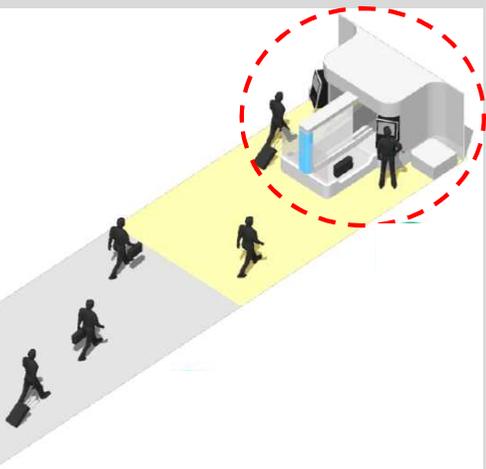
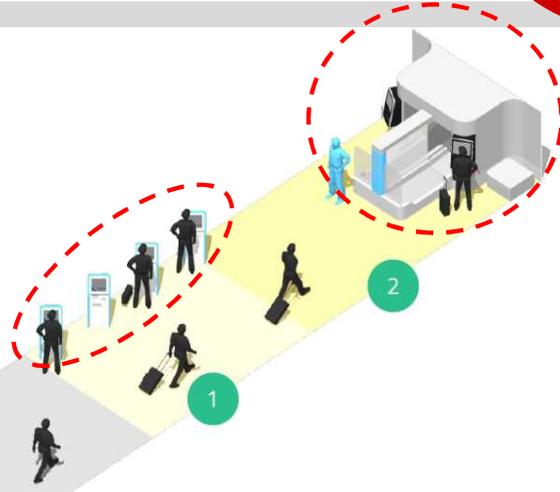
出発 「午前7-9時台出発の手荷物専用カウンター利用の旅客において」
10 min 手荷物預待ち～預け手続～保安検査待ち
以内 通過旅客比率 **41 %*** **70 %**

到着 「午後8-10時台到着の旅客(日本人/外国人比率 約50%)において」
30 min 検疫前～到着出口
以内 通過旅客比率 **81 %*** **90 %**

SBD 新規導入の検討

	レトロフィット	ニューフィット
設置イメージ	<p>既存カウンター設備そのまま ディスプレイ、センサー等を追加設置</p>  <p>海外空港 事例</p>	<p>既存カウンターをSBDユニットに換装</p> 



	1 STEP スタイル	2 STEP スタイル
手続き		

2020.3 T2・T3において本格導入

- 安全でユーザビリティ高いセルフ機器の選定
- 有/無人対応の両用、顔認証機能の拡張性
- 2 STEPスタイルによる手続きフローの分散
- フロアへの効果的・効率的なレイアウト

One ID による「本人確認の自動化」×「パスポート提示不要化」

利用シーン	自宅等	搭乗手続き	手荷物預け	保安検査	出国審査	搭乗	
現在の 手続き 手続機器	 WEBで事前 チェックイン	 CUSS ・有人カウン ターでチェックイン	 有人カウンタ ーで手荷物預け	 保安検査場入口にて PRS で入場資格確認	 審査官・自動化ゲ ートで審査	 係員にて本人確認 BGR で搭乗券確認	
	   パスポート + 本人確認 + 搭乗券		  パスポート + 本人確認		  パスポート + 本人確認		   パスポート + 本人確認 + 搭乗券

2020.3 ■ 実証実験を目指す

One ID コンセプト 顔認証・自動 手続機器	 WEBで事前 チェックイン	 CUSS で搭乗券と 顔情報を紐付け	 SBD で顔認証し、 手荷物預け	 保安検査場入口にて PRS で入場資格確認	 自動化ゲートで 出国審査	 BGR で搭乗資格確認				
	 搭乗券とパスポート・ 顔情報の紐付け		  パスポート + 搭乗券 + One ID生成 顔情報	 顔認証		 顔認証		 顔認証		 顔認証

羽田FAST TRAVEL 導入・展開における課題

2020.3 にむけ、特に**出発**における下記課題を認識。
官民一体となつての解決・推進を図っていきたい。

一般
区域

チェックイン
手荷物預け等

SBD導入にむけ、

- 広く、多くのエアラインに利用いただける料金体系づくり
- T3 既存のカウンターフロアへのレイアウト計画、換装工事

セキュリティ
保安検査

T3 増便にともなう
混雑緩和にむけ、

- 保安検査場への**スマートレーン**導入の更なる拡大

出国
審査

搭乗
ゲート



One ID

- 航空保安としての'本人確認'を「自動化」に置換え可能とする制度確立